

○緑友会福岡県議団 一般質問 二十八番 神崎 聡

皆さん、こんにちは。食と緑を守る緑友会・清進福岡県議団の神崎聡です。

このたび、行橋市選出の堀大助県議が、我が会派に所属致しました。一時は緑友会一期生2人となり、これからどうなるのかと思いましたが、気がつけば4人となっています。

一期生4人、それぞれの持ち味を生かして、地域産業の発展や住民福祉の向上につながるように、力を合わせて県政の発展に頑張る所存であります。

私は大学を出て、就職先の勤務地が飯塚市・福岡市だったため、県議になり、田川の振興を考える時はいつも、田川から見て西の方との連携を見据えて、振興策を考えていました。今回、京築地域に足を運び、あまりにも筑豊地区という枠にこだわり過ぎていたんじゃないかと思うようになりました。田川地域は、太陽の昇る方角、もっと東に目を向けた振興策に取り組む必要があるんじゃないかと感じたのであります。そこには、水産資源豊富な周防灘・豊前海が広がっていました。24時間機能を有する北九州空港という空が待っていました。そして大きな可能性を秘めた東九州自動車道が目に見え込んできました。

私は田川地域の活性化には、行橋市・豊前市の発展が欠かせず、京都郡・築上郡のインフラ整備が大変重要であることに気づきました。そこで、圏域を越えた交流の促進による田川地域の振興について質問致します。まず初めに、田川地域の企業誘致についてお尋ね致します。

田川・京築間の大動脈である国道201号は、国道3号と国道10号を結ぶ筑豊地域唯一の延長83.5キロの横断幹線道路であります。平成6年1月に策定された「広域道路整備計画」の交流促進型の筑豊横断道路として位置付けられました。九州縦貫自動車道福岡インターチェンジや国道200号、国道211号、国道322号、そして、九州自動車道行橋インターチェンジと連結し、又、緊急輸送ネットワークに位置付けされた福岡県中央部を横断する主要な幹線道路であります。

また国道201号は、ここ数年来、周防灘沿岸の自動車産業をはじめ各種製造業の関係部品の輸送、地域の特産品の流通などに不可欠の路線とも位置付けられております。本年3月23日には、東九州自動車道の苅田北九州空港インターチェンジから行橋インターチェンジまでが開通しました。本年度内には、みやこ豊津インターチェンジまで開通する予定であり、東九州自動車道は、すでに供用されている椎田道路と接続され、北九州市内及び京築地区を結ぶ主要アクセスポイントとして、重要な役割を果たしていくと思っております。

この東九州自動車道の開通により、交差する国道201号についても一体的に機能し、地域間交通ネットワークの充実が大変期待される所です。

京築地域・日豊線沿いには、日産・トヨタやダイハツをはじめとした自動車産業が集積しています。田川地域にも自動車関連産業の誘致を目指さなければならないと考えます。

また、本年3月末に本県が事業を引き継ぎました田川工業用水道を活用した、製造業を中心とした企業誘致にも積極的に取り組む必要があると思います。

そこで知事にお尋ね致します。現在、田川地域における工業団地の分譲状況はどのようなになっているのでしょうか。

雇用の場の確保のためには、工業団地の造成など受け入れ環境を整えることが必要だと思います。今、田川市郡には企業誘致をする専門的な体制が十分でなく、活用できる用地の情報収集も十分でない状況だと聞きました。本県の指導の下で、臨海工業地帯を抱える京築地域のポテンシャルを活かして、田川地域の誘致活動を、積極的に展開を図っていくべきだと思いますが、知事のご所見と取り組みについてお聞かせ下さい。

また、福岡市や北九州市に集中しています、オフィス系企業誘致を地方にも分散できないもののでしょうか。田川には公共施設の空スペースの活用が進んでいない実態があります。まずはファシリティ・データベースを整備し、施設の最適化・計画の策定、長期にわたる施設保全体制を整備するなど、ファシリティ活用策定ビジョンが必要だと思います。

本県及び市町村の次世代のファシリティ・マネジメントについて、知事はどのようなお考えをお持ちになっていますでしょうか。お尋ね致します。

次に圏域を越えた連携による住民交流の促進と新たな観光振興策についてお尋ね致します。

私は、行橋市の中心部を流れる今川の堤防の桜が、ここまで見事な桜並木だとは思いませんでした。住民の皆さんの奉仕活動の賜物だと敬意を表するところです。また、行橋市の最下流から上流へ向かって、県道34号・行橋添田線を今川沿いにさかのぼると兩岸の桜並木も見応えがありました。

実は昨年8月6日、英彦山を源流とする今川流域にある添田町、赤村、みやこ町、行橋市の4市町村は、自然環境の保全や地域振興に協力して取り組もうと「今川流域市町村連絡協議会」を発足されています。

今川は県内で5番目に長い約38キロの2級河川であります。流域には県営油木ダムや赤村の宿泊施設「源じいの森」などの地域資源が豊富にあり、それらの有効活用を目指すものです。また各市町村が協力し、今川の水環境を後世に残す取り組みも行うとのことでした。

そこで知事にお尋ね致します。この協議会のように、今川を活用した京築地域と田川地域の連携による環境保全への取り組みや地域の住民交流の促進に、今後一層力を入れていく必要があると思いますが、知事のご所見をお聞かせ下さい。

我が会派の代表質問で、域内観光の振興について、知事は新たな観光テーマを検討し、県内各地域の誘客の拡大につなげていくとのことご答弁がありました。

圏域を越えた振興策を考えますと、例えば、地元田川には、二本煙突、山本作兵衛の炭鉦記録画など炭鉦に関する貴重な遺構が残っています。一方で、本県内には、飯塚市の旧

伊藤伝右衛門邸、築上町の旧藏内邸、大牟田の三池炭鉱、志免町の堅抗櫓、国民的民謡・音頭である炭坑節などが点在しています。炭鉱に関する「宝」を繋いで、広域的な観光ルート作り、それを強力にPRするなど、炭鉱をテーマにした新たな観光振興策を展開することも重要だと考えます。

あるいは、豊前市求菩提山、添田町英彦山は、平安時代中期、日本古来の山岳信仰と外来の仏教、道教などが習合して、修験道という日本独特の宗教が成立し、共通の華やかな修験道文化を展開してきました。

そこで知事にお尋ね致します。「炭鉱」や「修験道」のような地域の歴史や文化をテーマにし、県内を広域的に繋ぐ新たな視点による観光振興についてどのように取り組もうとお考えなのかお聞かせ下さい。

最後に広域的な地域水道ビジョンについてお尋ね致します。

平成23年12月定例会一般質問で、治水・利水の観点から必要性が高い伊良原ダムについて知事に質問致しました。総事業費は六百七十八億円で、完成予定は平成29年度となっています。京築・田川両地域にとりまして、伊良原ダム完成は、共通した長年の念願であり、共有の資源であります。

伊良原ダムの整備により、田川・京築地域においては、当初の目的であった水道水質悪化に対する代替水源や安定した水量の確保が図られるものと思いますが、現在、住民の皆さんへの説明が十分になされているとは言えないと思います。

水道法では、水道事業者は、水道の需要者に対して水道事業に関する情報を提供することとされており、国が策定した新水道ビジョンにおいても、住民との情報共有が必要であるとされています。

そこで知事にお尋ね致します。両地域の水道事業者は、住民の皆さんに十分な情報提供を行い、水道事業の安定的な経営を行うための中長期のビジョンを示すべきだと思いますが、知事は、田川・京築地域の水道事業者に対して、住民への情報提供や地域水道ビジョン策定について、どのように指導されるのかお尋ね致します。

圏域を越えた取り組みを通して、田川地域の振興を図り、依然として厳しい田川地域の現状を打破し、田川地域の将来ビジョンをきちんと示し実行していくことが、最重要課題だということを肝に命じて私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○緑友会福岡県議団 一般質問 二十八番 神崎 聡（再質問）

知事から大変、力強い、大きな後ろ盾となるご答弁を頂きました。

そこで、一つだけ知事に要望致します。田川地域における企業誘致であります、田川地域にとっての長年の課題は、新たな産業の創出であり、雇用の確保であります。

私は、13年前に香春町にCSKサービスウェアというコールセンターを誘致してきました。当時のCSKグループの役員が仕事仲間で、沖縄で創ろうとしたコールセンターを福岡ではどうかという話からでした。

いくつもの困難なハードルを乗り越えての誘致活動であり、何よりも、市町村の協力と熱意、そしてスピード感がなければ成功しませんでした。もちろん、当時の福岡県産炭地域振興センターの助成もあり、本県の企業誘致に対しての優遇策が決め手になったことは言うまでもありません。

知事のご答弁のように、地元市町村と県が一体となってはじめて企業誘致は成功するものだと思います。

そこで知事に要望致します。田川再生に向けた、新産業創出・企業誘致・既存産業の活性化など、雇用の確保に向けた構想とそれを実現するためのアクションプランを、地元自治体と県が一体となって、取り組むことを強く要望致します。

福祉の充実も子供たちの教育も、働く場がなければはじまりません。

田川の再生なくして、「県民幸福度日本一」はありえません。知事の田川再生にかける熱い思いに感謝致しまして、私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。